

©創通エージェンシー・サンライズ



MG
GUNDAM
LIFE SUIT
PRE





MOBILE SUIT
MSM-03

G O G G

PRINCIPALITY OF ZEON MASS PRODUCTIVE
AMPHIBIOUS MOBILE SUIT



ジオン公国軍
量産型水陸両用モビルスーツ
MSM-03「ゴッグ」
1/100スケール マスターグレードモデル



MSM-03 GOOG

公国軍における水陸両用MSの開発は、U.C.0079年2月の“地球侵攻作戦”的決定を待つて着手された。初期の計画はO6系の機体を改修して運用するというものだったが、通常のザク（MS-O6FまたはO6Cと言われる）の各部に水密処理など各種改装を施したMS-O6Mザクマーリングタイプは耐圧性能や装甲形状などの要素から、実戦に堪え得るものではなかったため、全く新たな観点から水陸両用MSが開発されることとなり、MSMというカテゴリーが作られた。同時にO6MはMSM-01と改称され、水密構造や稼働部分に使用する部材などのテストヘッドとして使用されることになった。

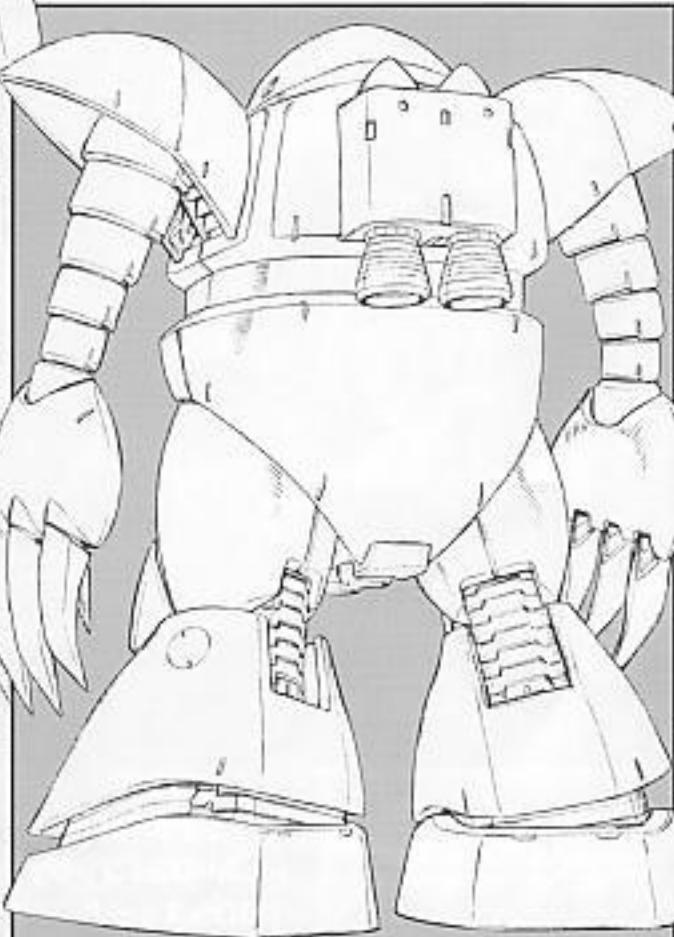
MSM-03ゴッグは、公国軍が初めて量産化に成功した水陸両用MSである。後の機体群と比較すれば決して高性能とは言えないが、水中でも陸上でも運用可能なMSが量産可能であることを実証した先駆けであることは紛れもない事実であり、その意味で非常に歴史的な機体であるといえることができるだろう。特にゴッグは標準的な機体と比べ、単純計算で2~3倍のジェネレーター出力を持っており、公国軍においてビーム兵器を標準装備として搭載する最初期の機体であることも忘れてはならない。これは、水冷構造などを取り入れた新たな冷却システムが開発されたことによって可能となったものだが、公国軍におけるMSへのビーム兵器搭載は、連邦軍のようなCAP技術の開発によらず、ジェネレーター直結構造の小型化という形で推進されたのである。それに伴う開発・製造に関するノウハウの蓄積こそが、公国軍におけるビーム兵器の小型化技術の進展に大いに寄与したであろうことは想像に難くない。無論、続く水陸両用MS群の充実も、いわんや豊富なバリエーションもゴッグがあればこそなのである。

開発当初、ゴッグは、後にスゴックと呼ばれるMIP（エム・イー・ピー）社製の機体および、ザクをベースとするZEONIC（ジオニック）社製のMSM-02

水中実験機などとジオン本国において製作された上で制式採用されたと言っているが、その時の機体は、脚部などの構造が異なるMSM-03-1プロトタイプ・ゴッグと呼ばれる機体だとする説もあり、詳細は不明である。

ゴッグを開発したZIMMAD（ツィマッド）社は、ドムのホバー機社で知られるように、流体推進装置や流体制御技術を得意分野のひとつとしており、ゴッグのいち早い実用化、量産化においてそれが反映されたと言えるだろう。この機体は早々に実戦投入され、地球各地で戦果をあげた。もともと公国軍は海上戦力において絶対的に不利であったはずだが、海中から陸上まで連続的に運用可能な兵器そのものが空前のものであったため、連邦軍はその対応が遅れた。単純に言えば、メガ粒子砲の自走砲台が突如として海から上陸してくる説で、その意味では防御のしようがない兵器だったと言えるだろう。ゴッグの水中における最高速度は70kt（ノット=時速約130km）であり、航続距離も非常に長い。つまり、電撃的な上陸作戦が可能である上、そのまま爆投も可能だったのだ。この行動半径の広さは、それまでのMSにはなかった特性である。無論、上陸後のゴッグが陸戦兵器としても高性能だったわけではないが、水際の港湾施設や陸戦兵の隠避などにおいて通常兵器に対し絶大な威力を發揮したのである。ただし、投人が危がれたため、生産された時期によって機体の仕様に若干の違いがあり、前期型や後期型といった分類が施され、後に開発された後期型との性能差の改善や機能向上が計られている。また、四脚はMSM-07ズゴックとのフォーメーションが非常に有効であるという経験則から、戦争末期には、統合整備計画に基いて設計を全面的に見直したMSM-03Cハイゴッグなども同系機のカテゴリーで開発されている。

水陸両用MSの生産は主にキャリフォルニア・ベースにおいて行われており、連邦軍の勢力圏内にある港湾施設の破壊や制圧、海上輸送路の寸断にも威力を発揮した。機体の多くは各地の潜水艦隊に配備され、強襲作戦や上陸作戦においても大きな功績をあげている。また、ジャブロー攻略戦における隠密施設の発見や哨戒などにおいても水陸両用MSの果たした役割は大きく、公国軍が制圧地域の支配を維持できたのも、これらの機体による功績とされている。航空戦力を大幅に消耗した連邦軍は、部隊の移動や兵站のために陸路か海路を多用するしかなかったのだが、それを水際で良い止めていたのが公国軍の水陸両用MSだったのである。



MSM-03 GOGG

Parts Name

Parts List

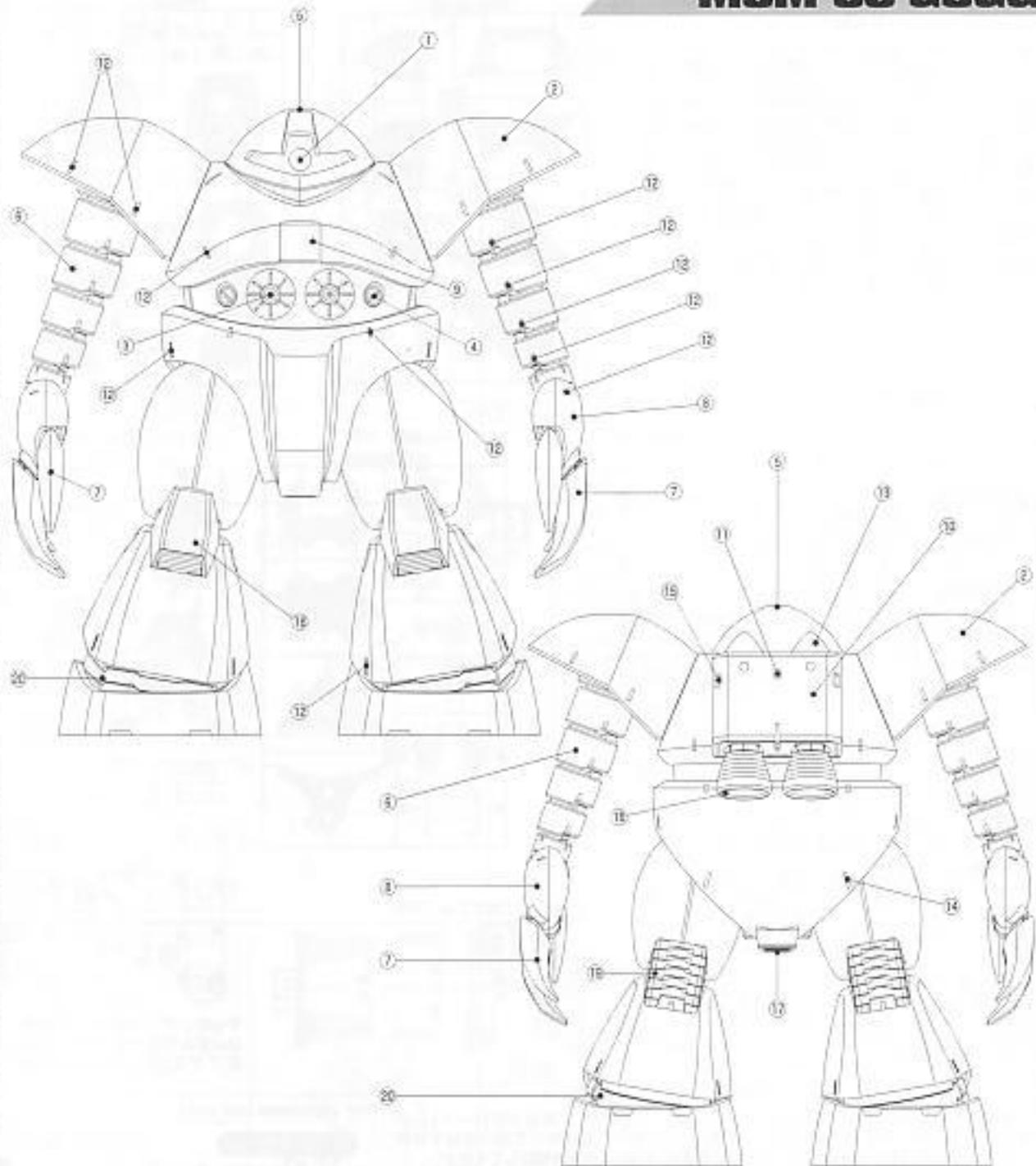
Head Unit

Body Unit

Arm Unit

Leg Unit

Final Assembly



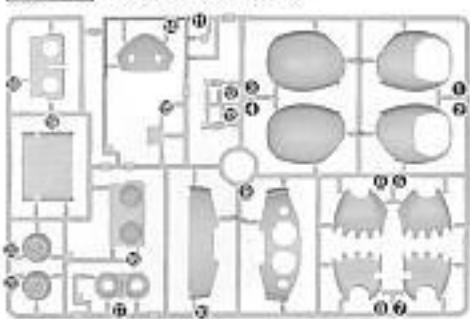
- | | | | |
|--------------|------------------|----------------|----------------------|
| ① メインカメラ | ⑥ フレキシブル・ペロウズ・リム | ⑪ リアセンサー | ⑯ パーニアスラスター |
| ② ショルダーアーマー | ⑦ アイアンネイル | ⑫ フリュイドセンサー | ⑰ インサイドレッグスラスター |
| ③ 拡散メガ粒子砲 | ⑧ バームユニット | ⑬ アヘッドセンサー・アレイ | ⑱ ニーアーマー・ダクト |
| ④ 魔雷発射管 | ⑨ コクピットハッチ | ⑭ アバフトセンサー | ⑲ フレキシブル・ニージョイントアーマー |
| ⑤ マルチブルランチャー | ⑩ バックパック | ⑮ テンポラリーラッチ | ⑳ フレキシブル・アンクルアーマー |

*アバフト=船尾、アヘッド=艦の前方(艦船用語) *フリュイド=流体

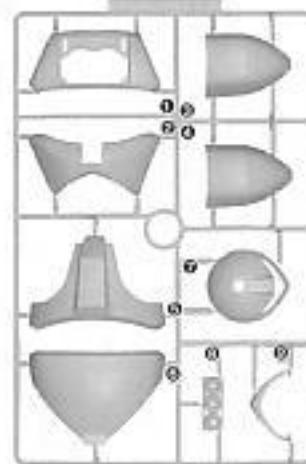
注) この機体は、キャリフォルニア・ベースのZIMMAD工廠において生産された、いわゆる“後期型”と呼ばれる仕様の機体である。洋上や沿岸部の連邦軍施設や船舶、輸送機などに甚大な被害を与え、公国軍の海上戦力構築に貢献した。水陸両用MSは、この機体の運用を通じた試行錯誤により完成できたと言われている。

パーツリスト

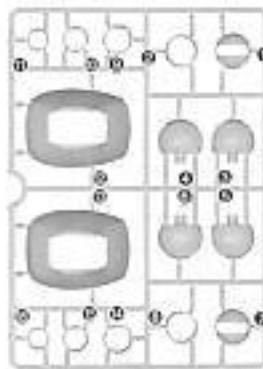
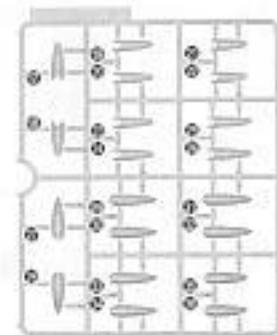
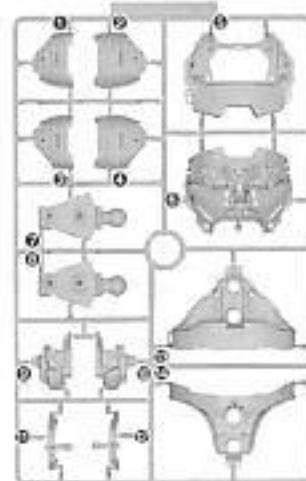
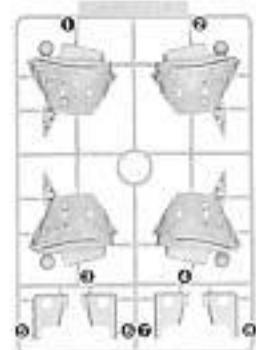
A/パーツ (スチロール樹脂: PS)



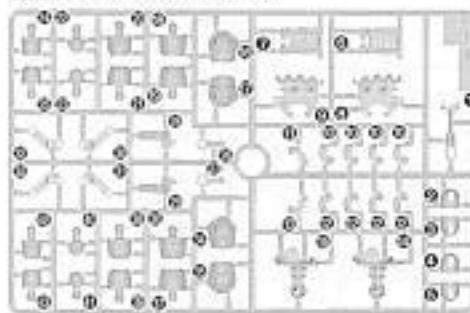
B/パーツ (スチロール樹脂: PS)



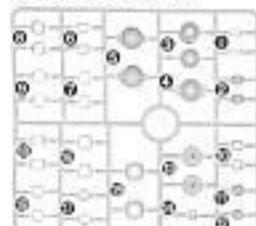
C/パーツ (スチロール樹脂: PS)

D1/パーツ
(スチロール樹脂: PS)D2/パーツ
(スチロール樹脂: PS)E/パーツ
(スチロール樹脂: PS)F/パーツ
(スチロール樹脂: PS)

G/パーツ (ABS樹脂: ABS)



H/パーツ (合成ゴム: TPE)

I/パーツ
(ポリエチレン: PE)

マーキングシール.....1枚
ガンタムテカール.....1枚
スプリング.....1本

（お問い合わせのお客様へ）部品をこわしたり、なくした時は、「部品注文カード」に必要な部品の記号／番号／数量をはっきり書いて切り取り、郵便局で定額小為替をお買い求めいただき、封書《裏面に必ず、お客様のお名前、年齢、ご住所を明記してください。》にて下記までお申し込みください。代金は、料金表通りです。お替証書は無記入（白紙）で同封してください。なお、部品の形状・重量で郵送料に過不足が生じるときがあります。部品発送の際に表記額を超える時は不足分を請求、表記額以下の時には残額をお返しいたします。もし部品に不良品がございましたら、その部品を切り取り、商品名を書いて、下記まで封書にてお送りください。良品と交換させていただきます。

■申し込み先 (株)バンダイ静岡相談センター

〒424-8735 静岡県静岡市清水西久保305 TEL0543-65-5315

（料金表）●部品代は1個の料金です。

部品番号	取扱説明書	デカール類	その他の部品
部品代	150円	各40円	各40円
船送料	200円	80円	120円

For Japanese use only.

部品注文カード 0119253-3500

1/100SCALE MGシリーズ
MSM-03 ゴッグ

必要な部品の記号・番号・数量をかく

●注文された理由(○で囲む)(こわしたなくした)

・日中ご連絡可能な電話番号
()
'03.06
※コピー使用可

△ 注意

必ずお読みください

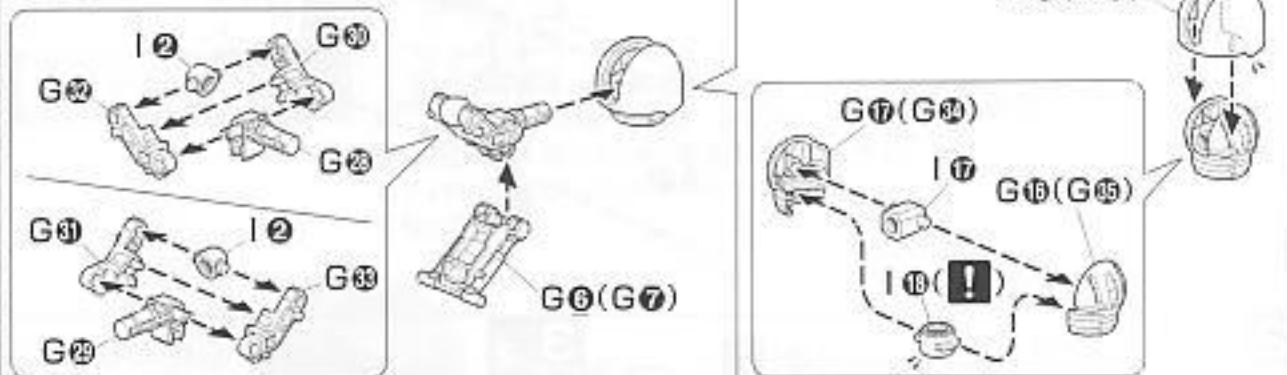
- この商品の対象年齢は15才以上です。(幼いお品がありますので、安全上15才未満には適しません。)
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭から被ったり、頭を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

組み立てる時の注意

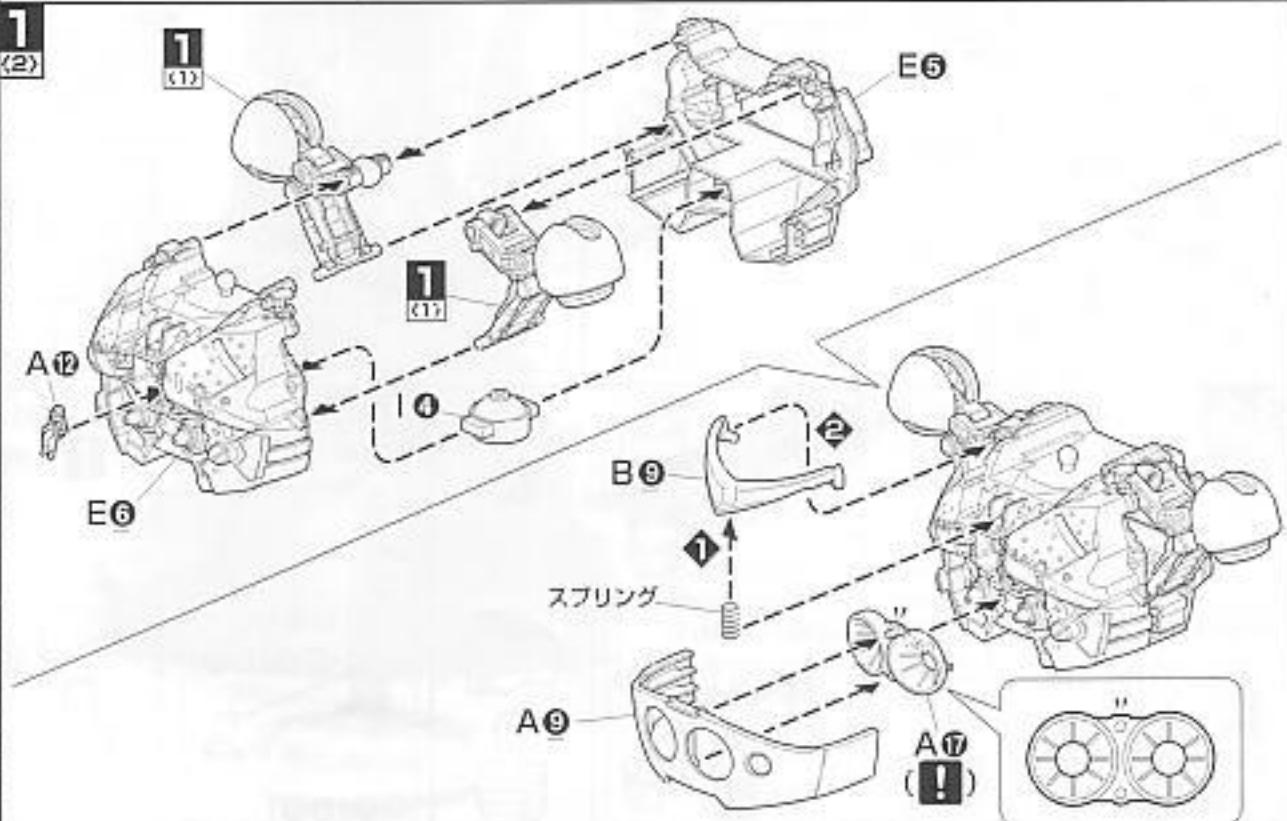
- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクスは捨ててください。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

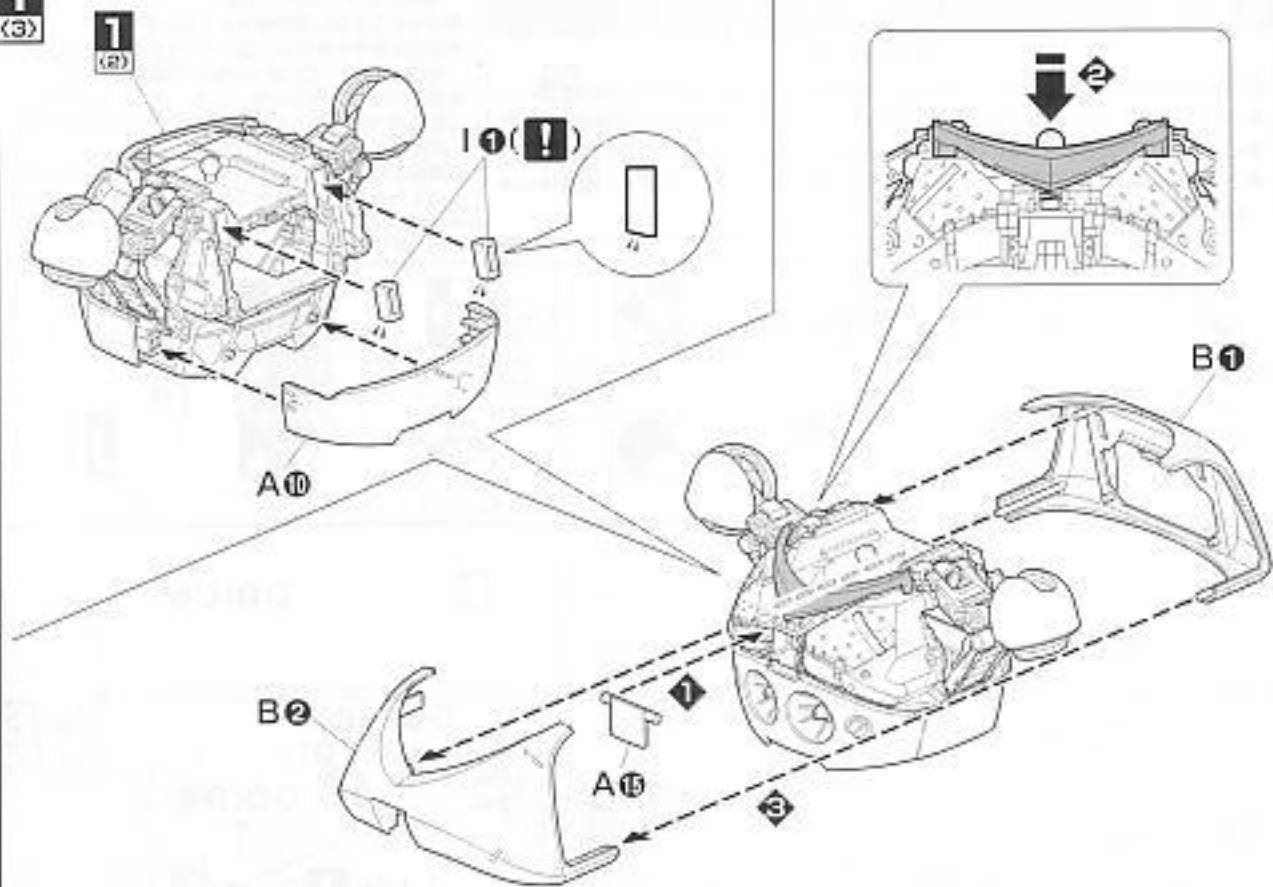
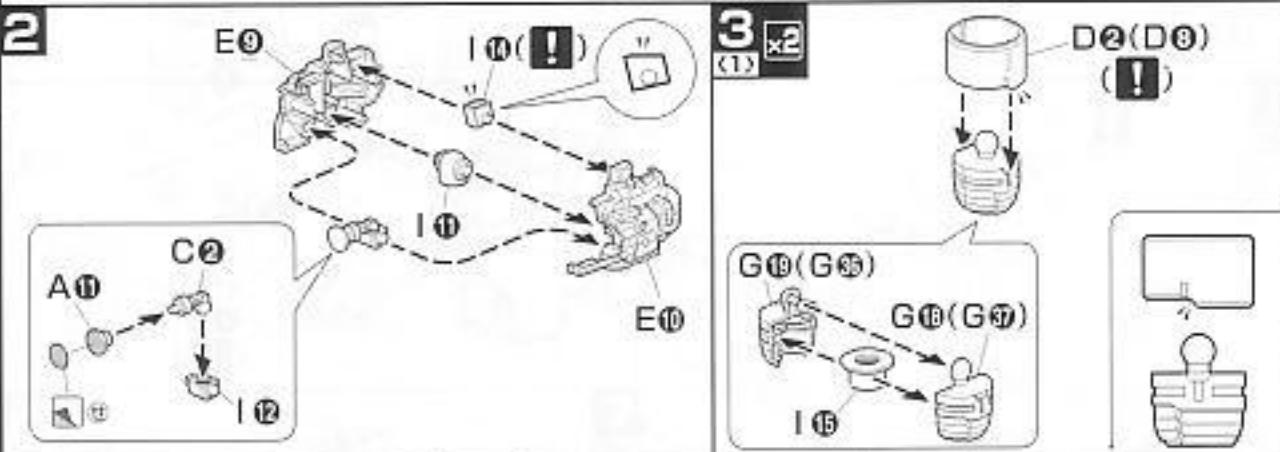
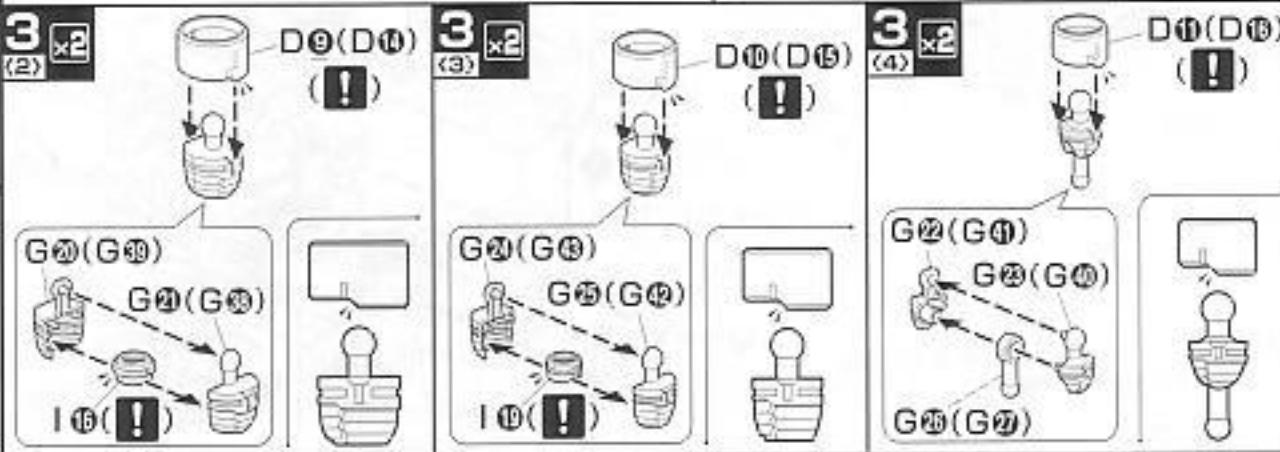
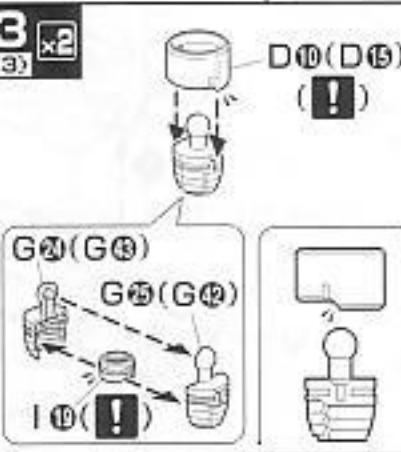
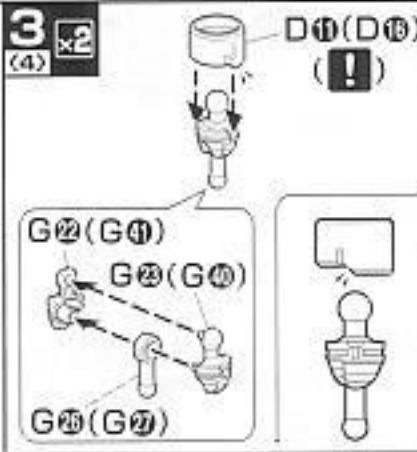


1 (1) x2



1 (2)



1
(3)**2****3**
(2)**3**
(3)**3**
(4)

HEAD UNIT

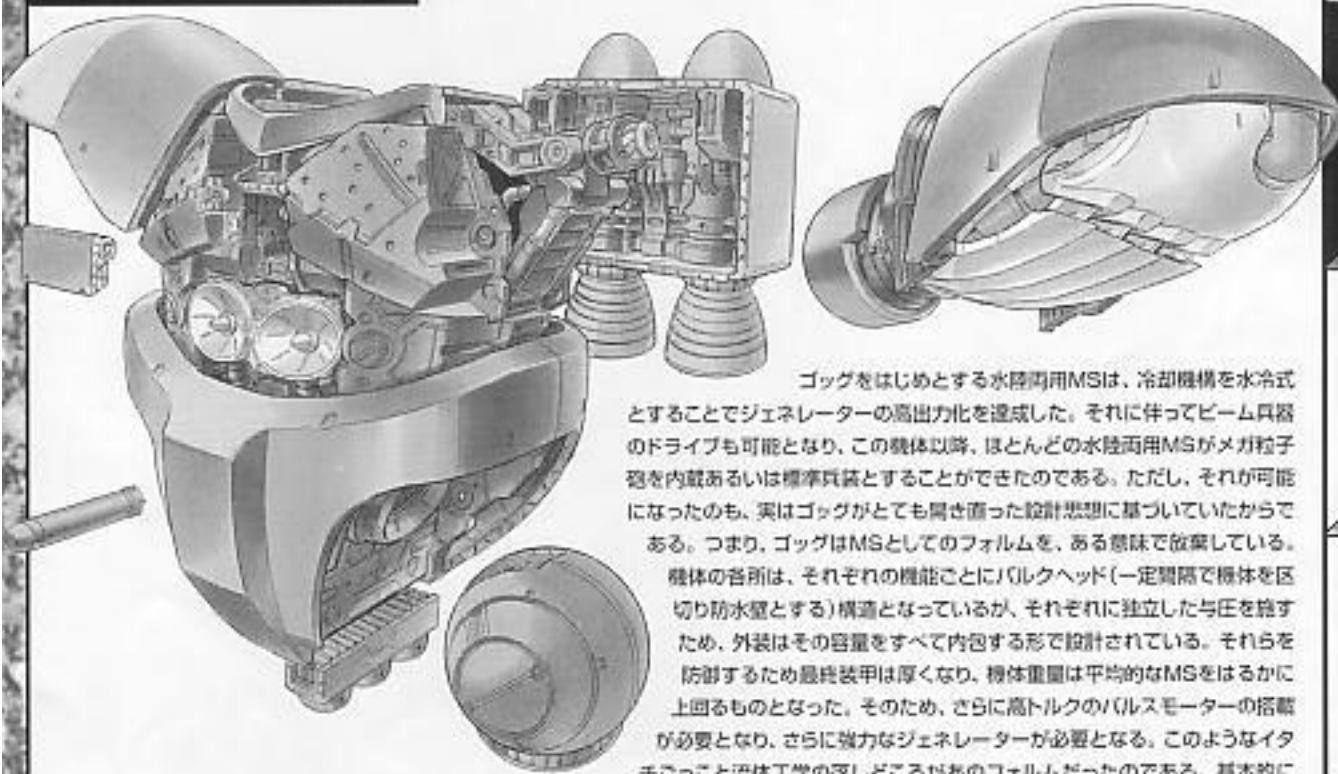
ゴッグのヘッドユニットは、モノアイおよびフリージーヤードなどを射出するマルチブルランチャーを中心とした水密構造となつておる。MSとしての必要最低限の機能のほか、潜航用の装備がいくつか追加されている。

ゴッグの頭部ユニットは、基本的にザクと同様の機能を果たす程度のスペックしか求められていなかったため、モノアイと航行のために最低限必要なソナー類およびマルチブルランチャー以外は装備されていない。ただし、他の機体用に何種類かの装備を試験的に搭載した機体などもあったようだ。前期型、後期型を問わず、いくつかの仕様違いもあったと言われている。マルチブルランチャーは水中での射出も可能で、信号弾や照明弾などの他、フリージーヤードと呼ばれる特殊な榴弾を射出することができる。

フリージーヤードとは、敵の探知波や機雷などの照障、掃討設備を無効化することができる特殊装備である。射出されたフリージーヤードは、機体の進行方向前方で破裂し、内蔵された特殊な液体が海水や真水と反応してゲル状のシールドを形成し、機体を包み込むように展開する。これによって、機雷や爆雷などの爆発を防ぐことができるうえ、弾体そのものを始め取る。接触式の機雷のほか、磁気感応式の信管などにも有効であったと言われている。また、機体表面をゲル状の物質がコーティングするため、反射音を探知するようなアクティブセンサーサイトをかいくぐることも可能であったようだ。ただし、この装備を使用する際には吸水口にゲルが侵入しないよう塞ぐ必要があるため、長時間に渡って展開続けることはできず、また、結めどった機雷なども早めに投棄するほうが賢明であり、使用できる時間は非常に短かったようだ。



BODY UNIT



ゴッグをはじめとする水陸両用MSは、冷却機構を水冷式とすることでジェネレーターの高出力化を達成した。それに伴ってビーム兵器のドライブも可能となり、この機体以降、ほとんどの水陸両用MSがメガ粒子砲を内蔵あるいは標準武装とすることができたのである。ただし、それが可能になったのも、実はゴッグがとても開き直った設計思想に基づいていたからである。つまり、ゴッグはMSとしてのフォルムを、ある意味で放棄している。

機体の各所は、それぞれの機能ごとにパレクヘッド(一定間隔で機体を区切り防水壁とする)構造となっているが、それそれに独立した与圧を施すため、外装はその容量をすべて内包する形で設計されている。それらを防御するため最終装甲は厚くなり、機体重量は平均的なMSをはるかに上回るものとなった。そのため、さらに高トルクのバ尔斯モーターの搭載が必要となり、さらに強力なジェネレーターが必要となる。このようなイタチごっこと流体工学の落としどころがあのフォルムだったのである。基本的に

ゴッグのボディユニットは、水陸両用MSとしての機能が整理される以前の構造のまま生産が続けられた。つまり、通常のMSとして必要な部品と、潜航艇として必要な装備の双方をそのまま持っているのである。このことが、逆にテストヘッドとして膨大なデータを生み出したのである。

ゴッグのボディ容量はザクのそれに数倍し、例えば各部の断面積でザクよりも狭い所はひとつもない。これらのすべてが“水中用”であることを前提に盛り込まれていった。とにかく、水面下にあれば機体の比重は軽くなる。ならば、陸上での機能が多少限定されようとも、水陸両用という環境に適応したスペックさえ達成されれば充分だという考え方である。ともあれゴッグは、水冷構造の採用によって、かねて懸念のビーム兵器の搭載が可能となつばかりか、ザクを上回る耐力と脚力を手に入れた。それは苦肉の策ではあったものの、要求スペックを満たし、MSの新たな地平を開拓したという意味において特筆されるべきだろう。

UNDERWATER CRUISE

U.C.0079年11月、オテッサの海賊による船を盾すため、ホワイトベースは北アイルランドの護衛軍ペルファスト基地へと向かった。スパイから艦籍不明の新型艦が入港したとの報を受けたシャアは、この艦が空母の木馬であると確信し、ユーコン艦長のフランガン・ブーンに申し送ると共に、自らもマッド・アングラー隊を率いてペルファスト基地を目指す。一方、先行するユーコン隊から出撃したラサのゴッグは、港のせ前で機雷に接触して爆発させてしまうのだが、ゴッグの装甲はびくともしなかった。「さすがゴッグだ、なんともないぜ」用心のためフリージャードを展開し、港内へと侵入するゴッグ。ペルファスト基地も機雷の攻撃が飛んだことを察知して警戒体制に移行するが……。



LANDING OPERATIONS

ペルファスト基地めがけ、ユーコンから爆撃のミサイルが飛来する。基地は混亂に陥り、ガンダムが迎撃のため出撃する。その混乱をよそに、ラサのゴッグは別方向からやすやすと上陸を果たす。「よし、うまくいった」同じく上陸したマーシーのゴッグは、防衛用のミサイルランチャーを盾しながら木馬のいるドックを目指す。迎撃のために出撃してきた連邦軍の戦闘車両が、ラサたちのゴッグはビームを放つ。次から次へと吹き飛ぶ戦車や大口径バルカン重装甲車両を爆撃しながら進撃する二機のゴッグ。「このゴッグの装甲が、パルカンぐらいでやられると思ってるのかよ！」と、そこにアムロのガンダムが立ち畢だった。「あれも新型のM.S.か！ ザクやグフとは違うようだが……」「出てきたな！ M.S.め！」マーシーのゴッグはガンダムを狙ってビームを放つ!!しかし銃一發、着地と同時にビームをかわしたアムロは、小手裏剣にバルカン砲でゴッグを撃つ！



THE HAMMER WAS CAUGHT!

「なんてM.Sだ。パルカンをまったく受け付けないのか！」ゴッグの装甲の強さに驚きながらも、アムロはパワーアップしたハイバーハンマーのチェーンを振りしめ、ゴッグを狙って振りかかる。「この動きなら！」ロケットを噴射して加速しながらゴッグ目がけ真一文字にハンマーが飛ぶ。轟音と共にゴッグが倒れ込む。しかし、たいしたダメージもなかったようで、擦く間にむくりと起き上がる。「やったなアッ、ガンダムっての！」再びゴッグにハンマーが迫る。ところがゴッグは、その両腕でハンマーを受け止めた。「ふふ…、馬力ならこのゴッグも負けんぜ」「なんて奴だ。このハンマーだってパワーアップしてるのに！」ハンマーをつかんだまま、ゴッグはチェーンごとガンダムをぐいと引き寄せせる！



ACTION POSE / INNER FRAME



PAINTING

*よりリアルに仕上げたいかたは、下の基本色をご覧ください。
※塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

●このキットをよりリアルに塗装したい方は、(例)GSIクレオスより発売のガンダムカラー(「ゴック」用、その他カラーセット)をお使いください。

本体ダークイエロー部の塗装色。
サンディイエロー(15%)
+ホワイト(30%)
+ブラック(10%)
※またはガンダムカラー オーカー2

メカ粒子等イエロー部の塗装色。
ホワイト(70%)
+クリームイエロー(30%)

本体ブラウン部の塗装色。
レッドブラウン(15%)
+ホワイト(30%)
+ブラック(10%)
※またはガンダムカラー ブラウン

ヒザ等ダークグレー部の塗装色。
ダークグレー(70%)
+ホワイト(30%)
※またはガンダムカラー グレー5

バックパック
ブルーブラック部の塗装色。
エアクラフトグレー(80%)
+ミディアムブルー(40%)

内部メカ等ダークグレー部の塗装色。
ミッドナイトブルー(100%)

メカ粒子等レッド部の塗装色。
モンザレッド(100%)

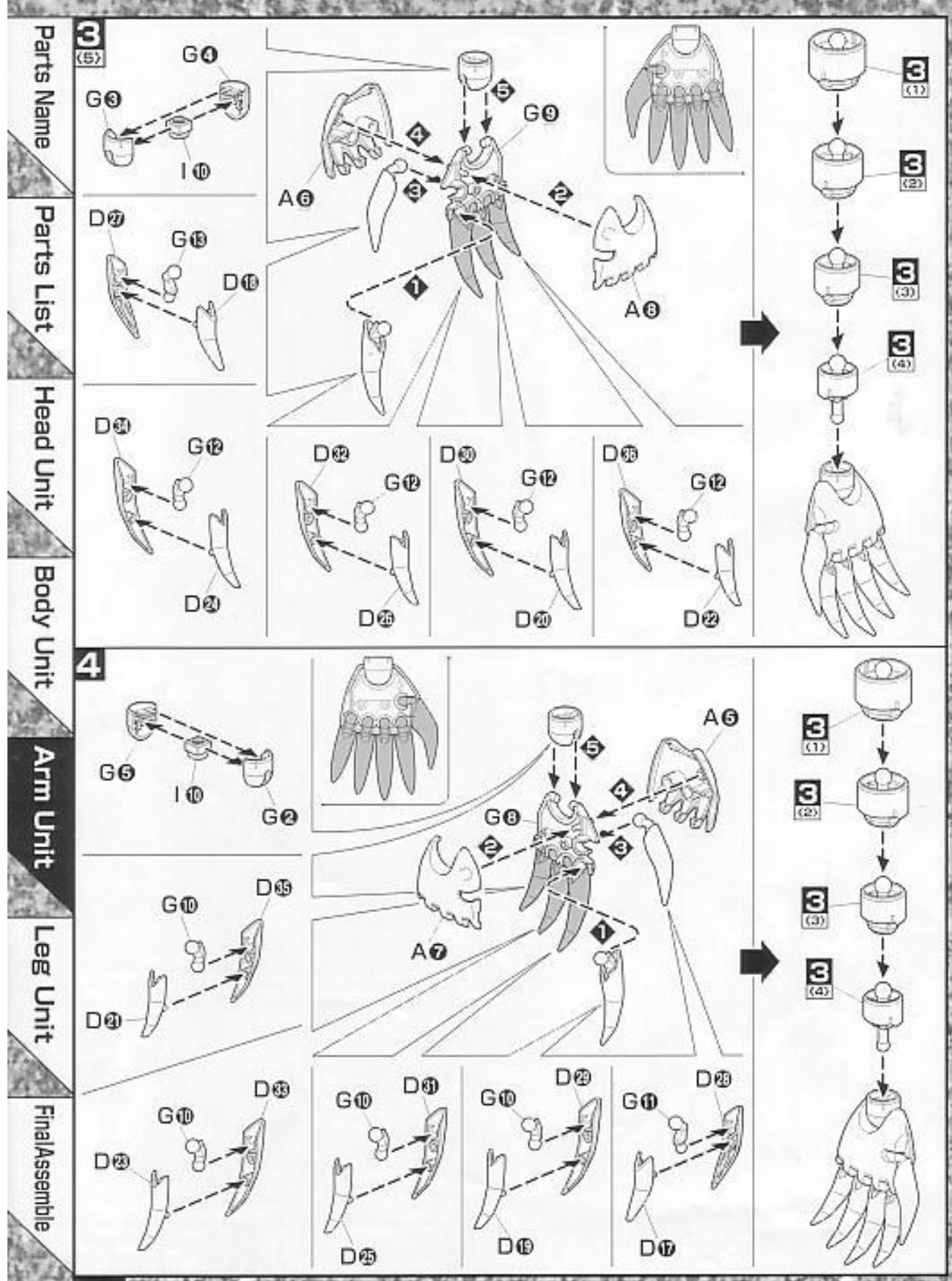
メインカメラピンク部の塗装色。
蛍光ピンク(100%)

FRONT VIEW



REAR VIEW





ARM UNIT

ゴッグの腕部は、後に公国軍の水陸両用MSの特徴ともなる環状の装甲に覆られた柔軟な可動肢と、クローラー状のアイアンネイルによって構成されている。これらは航行時にショルダーアーマー内に引き込まれ、水の抵抗を減免することができる。

ゴッグは陸上に移行する際、プロトタイプとは異なる腕部構造を採用した。その構造は、通常型MSのマニピュレーターと違い、自由度の高い複数の関節で構成され、各節のペロウズ（ジャバラ）部分を引き込むことで全長を短縮し、より抵抗の少ない航行形態をとれるように採用されたものであった。後にこのフレキシブル・ペロウズ・リムは、航行時の抵抗を減らし、逆に駆動的に可動させることによって水中での移動に復用することも可能であることが判明した。さらには、各節のアクチュエーターがショックアブソーバーとしても機能するため、例えば、敵の打撃や投擲兵器を防護したり、受け止めることさえ可能であったという。また、水陸両用MSは、機体運用の問題からオプション装備の携行が困難であることが想定されたうえ、通常のマニピュレーターに高度な耐圧構造を持たせるのは現実的ではないという判断から、新規用武装の代替案として、打突あるいは斬撃に適したクローラーなどを腕部先端に装備することとなつた。近接戦闘時には武装として機能するほか、簡易マニピュレーターとしても機能できるよう、開閉機構も持たされた。結局、運用上は確実な結果が得られたため、特にフレキシブル・ペロウズ・リムは後の水陸両用MSには積極的に採用されることとなつたのである。



LEG UNIT

ゴッグの脚部は、歩行脚であるとともに、主要な推進装置でもある。また、航行時の抵抗を減らすため、股関節をボディ内に引き込むことができるようになっている。



ゴッグの脚部は、基本的に熱核ハイドロジェットエンジンであり、水中での稼働を前提に設計されているため、いわゆる“歩行”能力は決して高いとは言えない。ただし、自重を移動させるためだけというわけでもなく、それなりに近接戦闘への対応も可能な程度のトルクやレスポンスは確保されている。緊急時には

“走行”も可能であるほか、ボディ下面や背部のスラスターを使用すれば、一撃離脱の白兵戦も不可能ではない。それでも、例えば陸戦においては温度の上昇などに配慮しなければならないし、パイロットは常に“水際”で戦うことを心掛ける必要があることは言うまでもない。が、ようやくゴッグの脚部が“歩行脚”として認めてあることは紛れもない事実であり、ゴッグの評価が芳しくないのも、およそその構造上の問題に解消するのである。ところが、ゴッグの脚部が発揮する“移動能力”そのものを考えれば、無論、海に出されすればではあるが、その行動半径は既存のMSをはるかに上回るものであり、最も広大な範囲を単騎で移動できた初めてのMSであると言うこともできるのである。ひいては、脚部にスラスターなどを補助的に装備するのではなく、熱核ジェット/ロケットそのものを内蔵した初めての機体だと考えれば、後のTMSなどに多用される基礎構造の先駆をつけた機体なのだと言っても過言ではないだろう。

Parts Name

Parts List

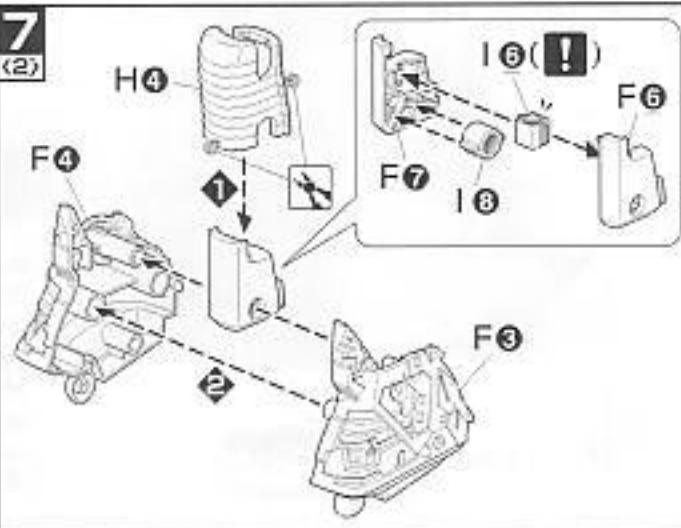
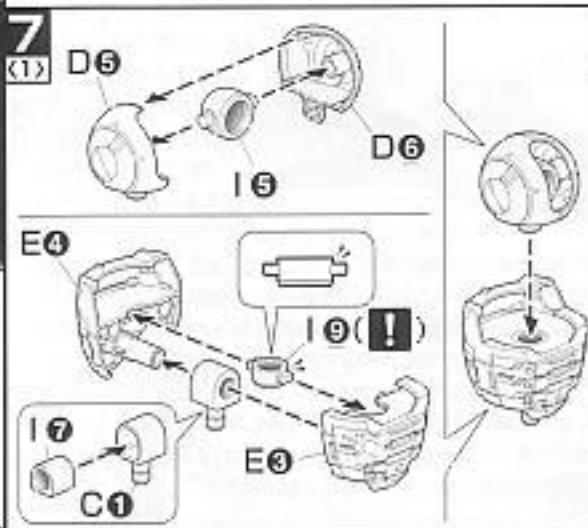
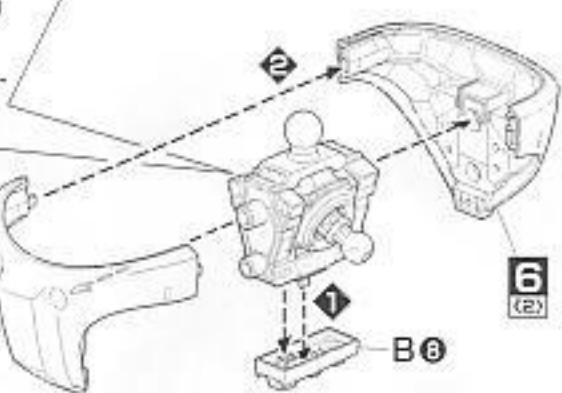
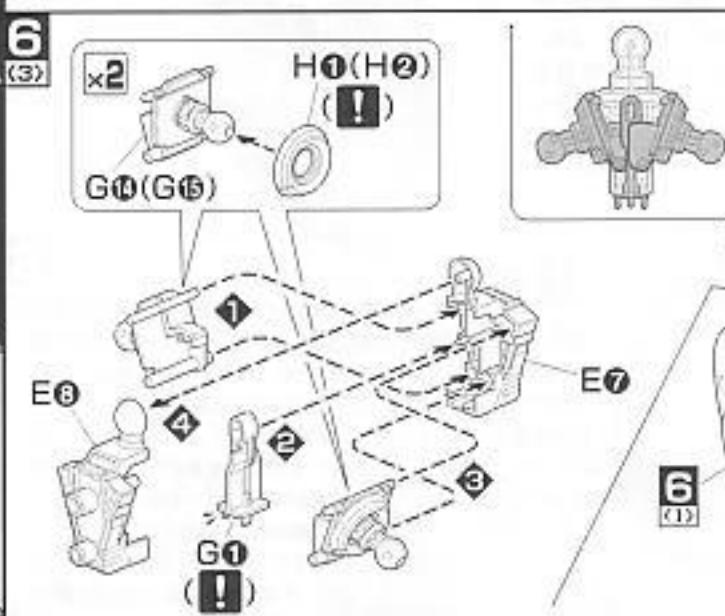
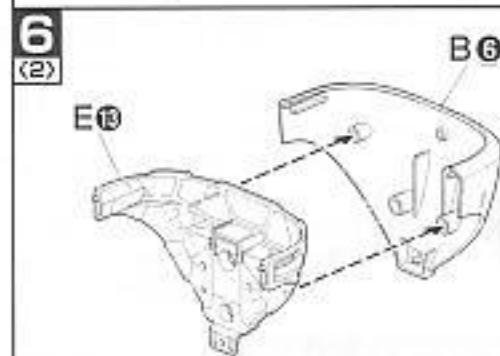
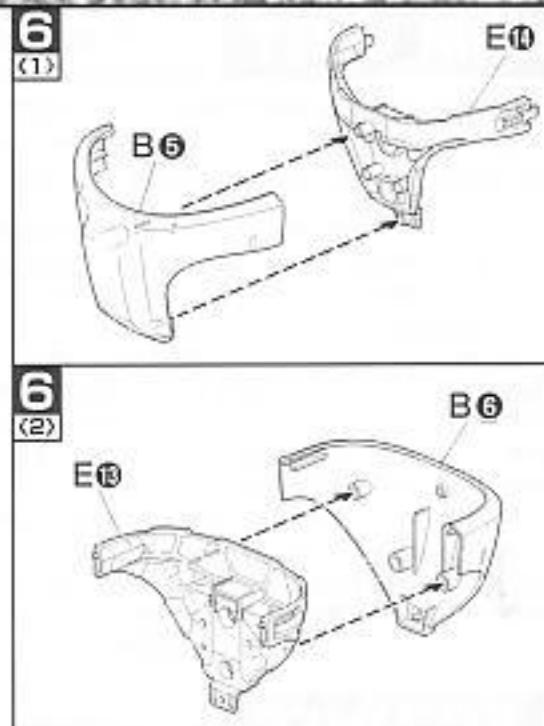
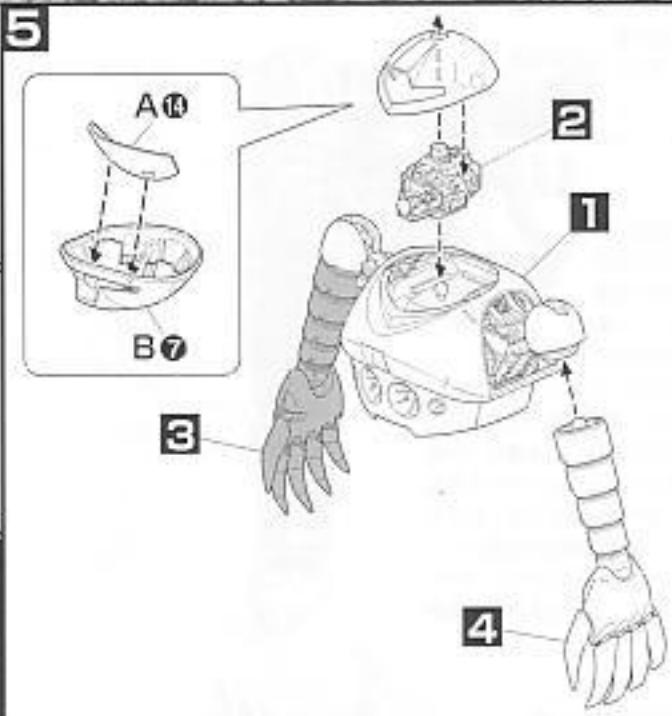
Head Unit

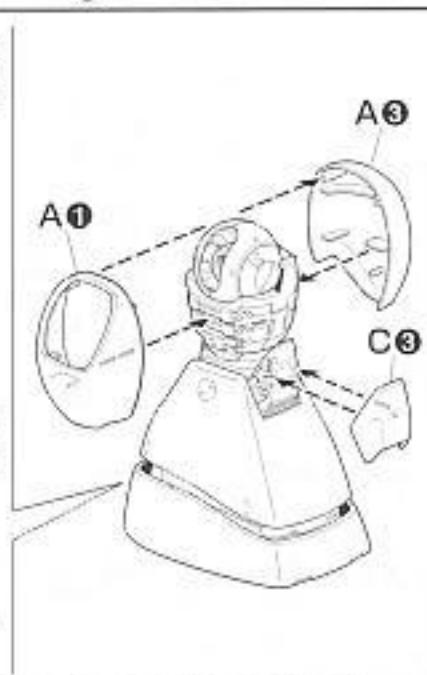
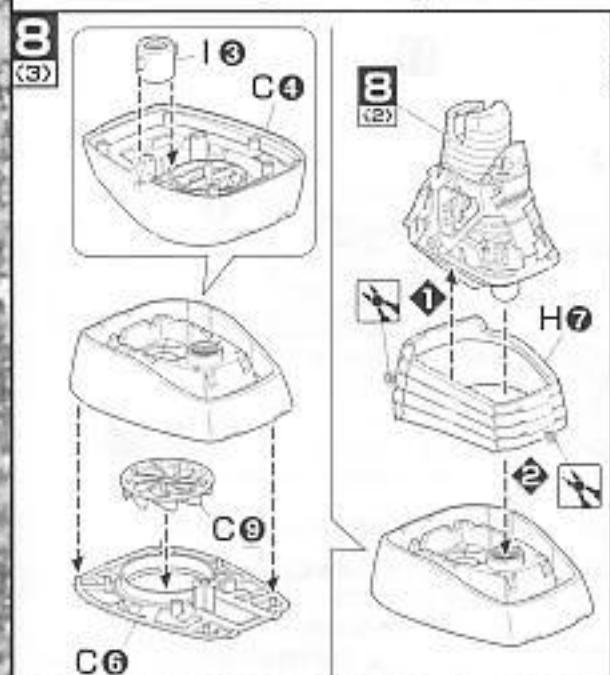
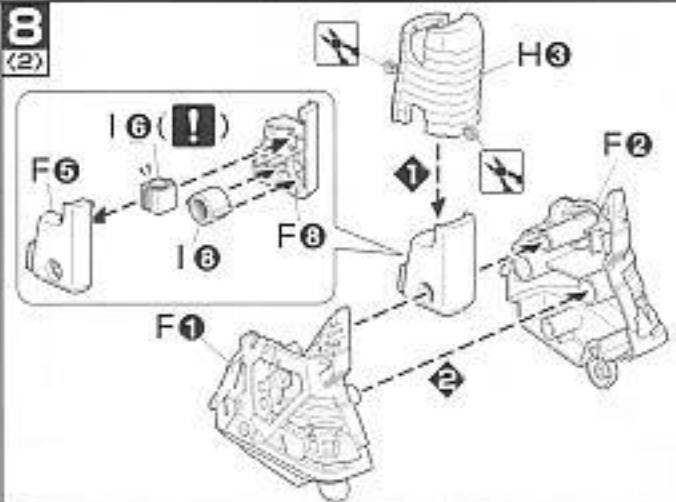
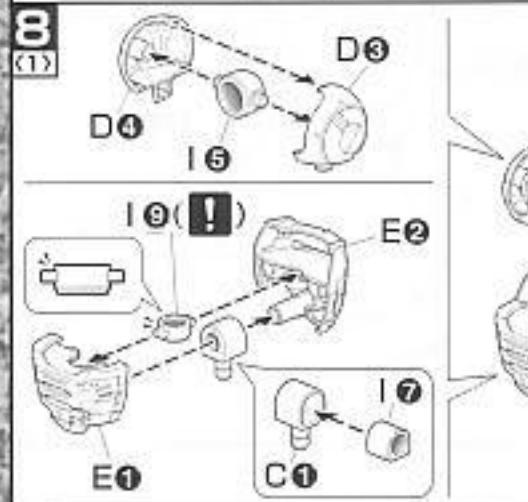
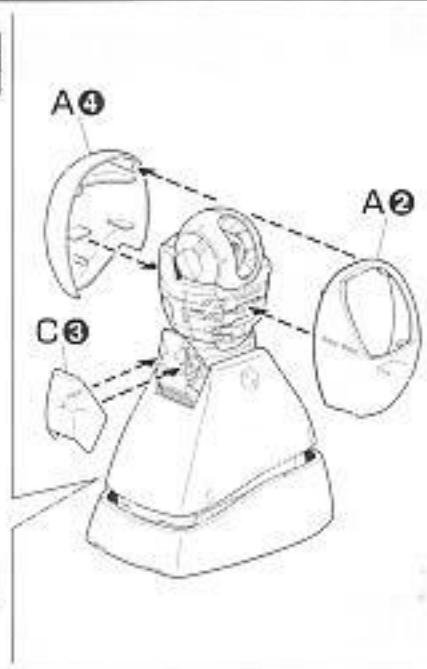
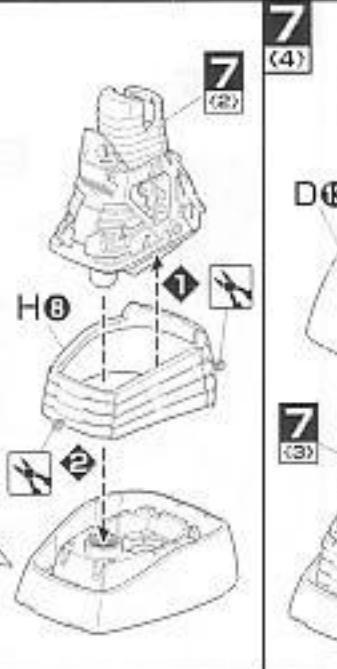
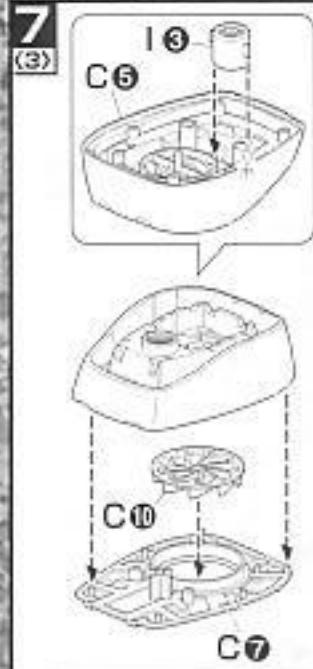
Body Unit

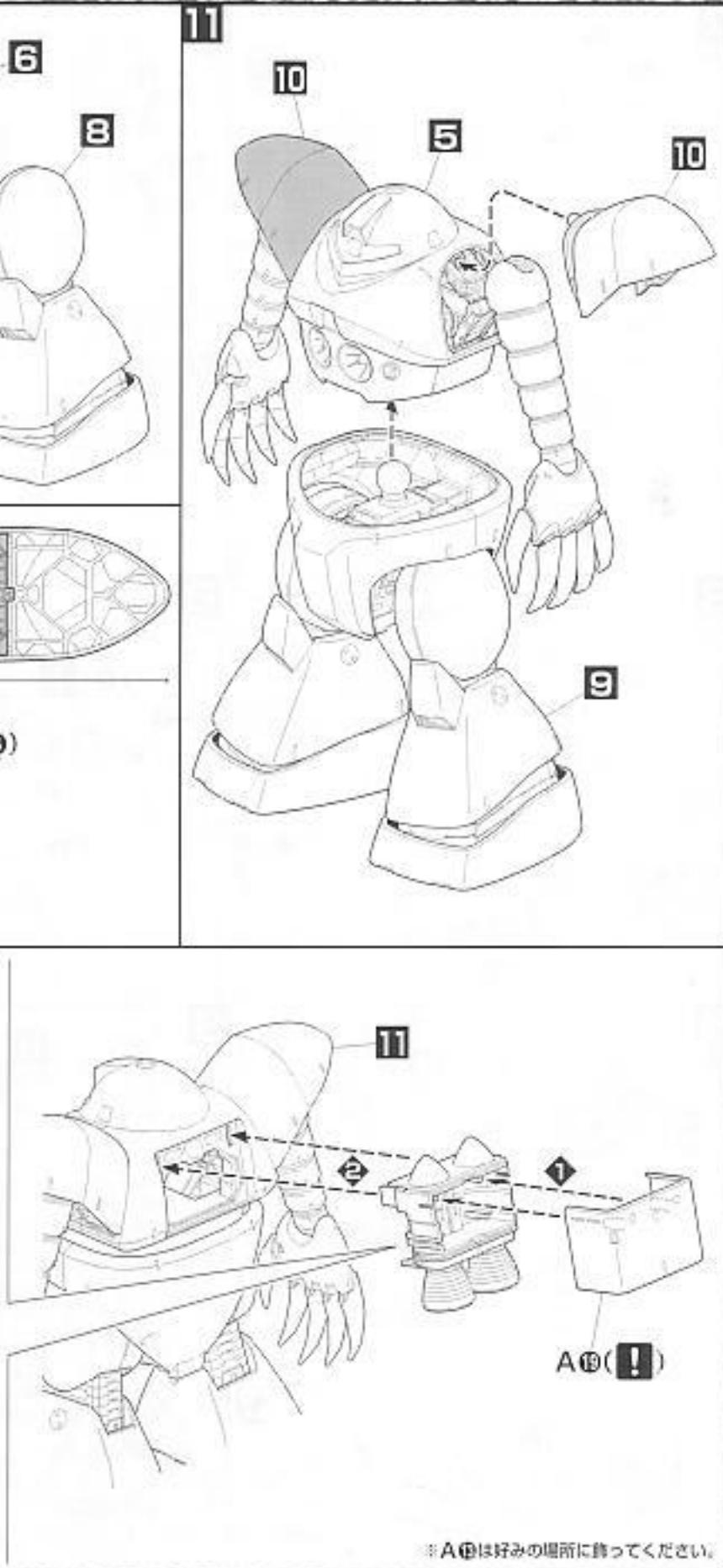
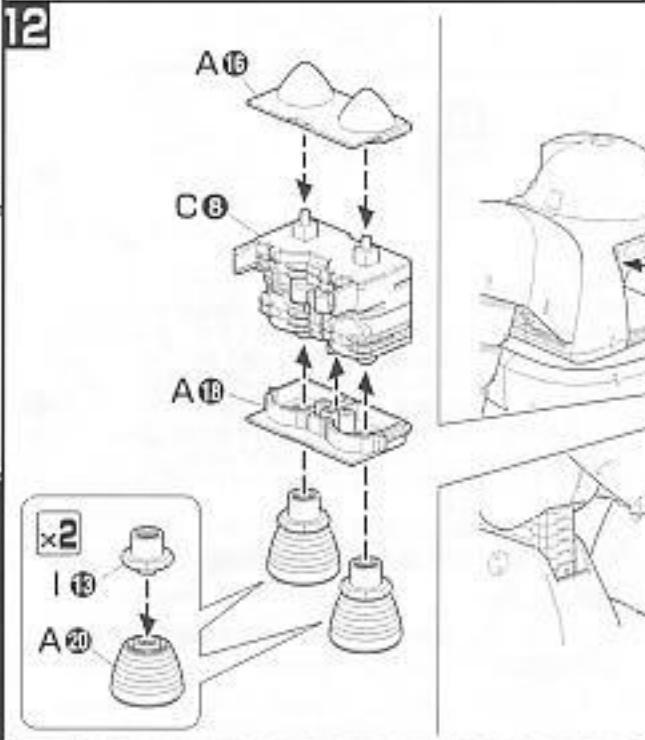
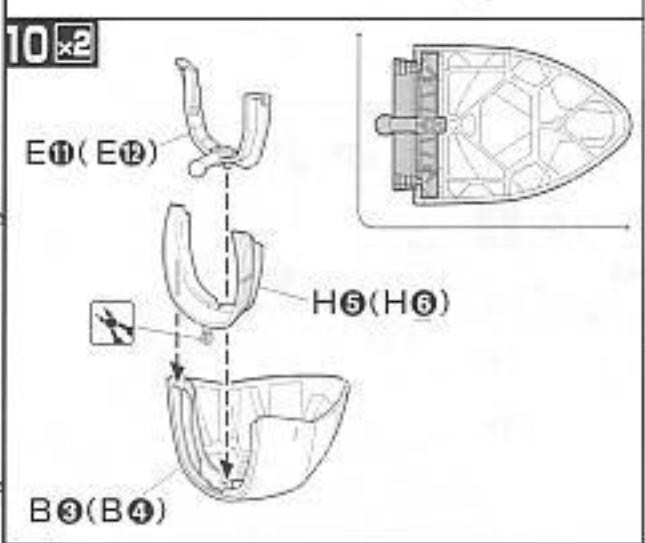
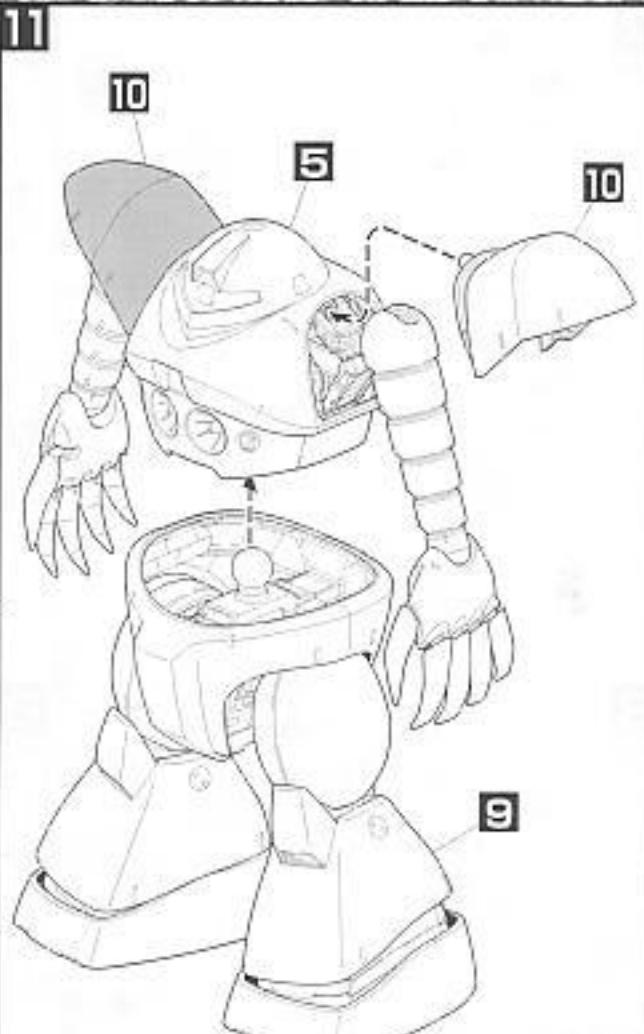
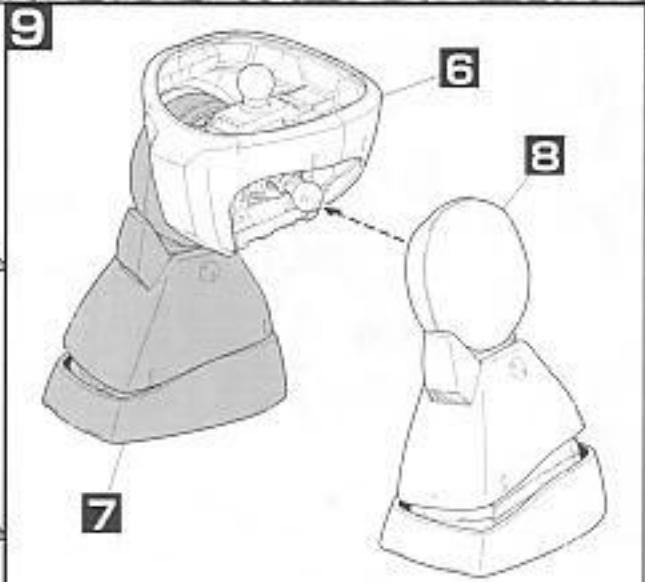
Arm Unit

Leg Unit

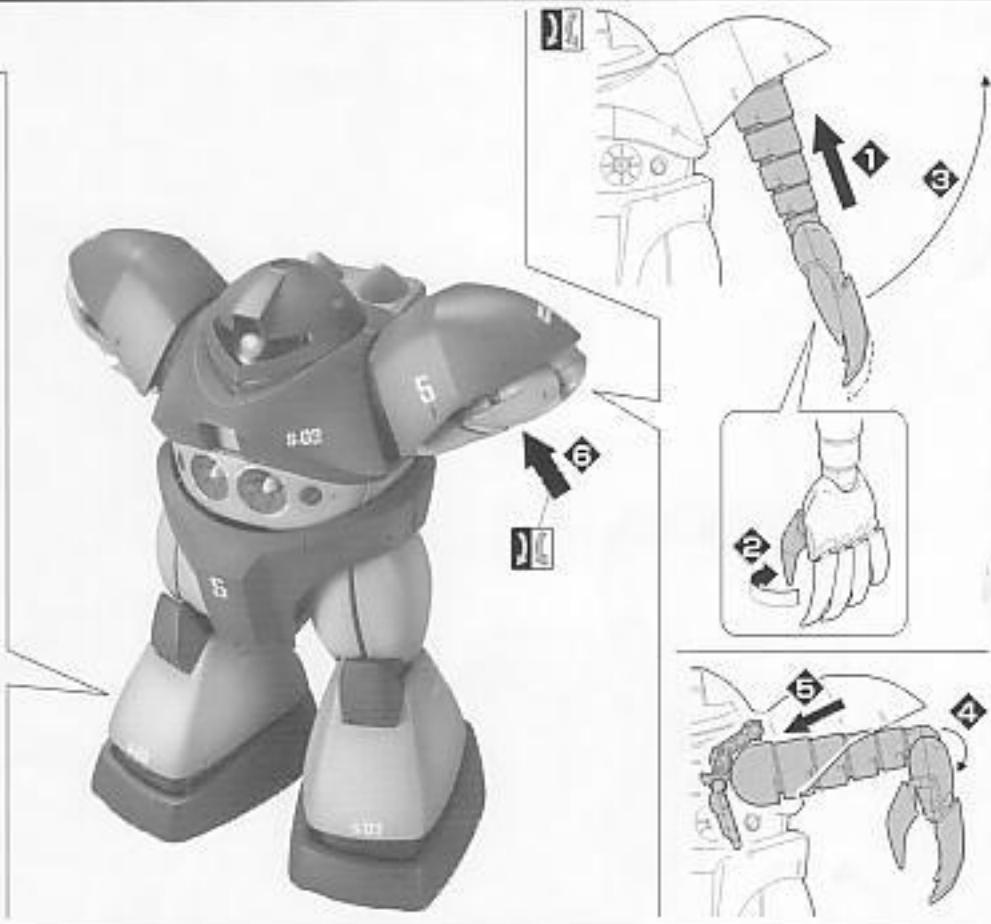
Final Assemble







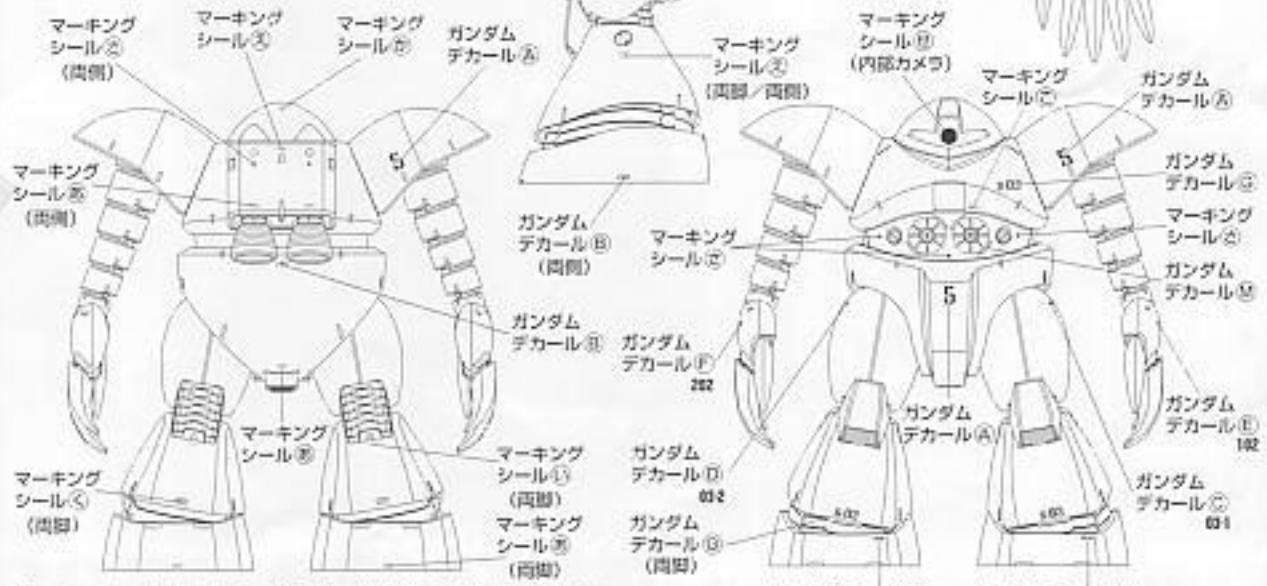
13

**Seal
(シール)**

下の図を見て、ガンダムデカールやシールのはる位置を確認してください。

ガンダムデカールのはりかた。

- 転写するマークを大まかに切ります。
- 転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
- シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすります。



*余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。

ガンダムデカール⑩ ガンダムデカール⑪



ジオン公国軍
量産型水陸両用モビルスーツ
MSM-03「ゴッグ」
1/100スケール マス

MSM-03 GOGG
Scanned by DaLong.net MASS PRODUCTIVE AMPHIBIOUS MOBILE SUIT